

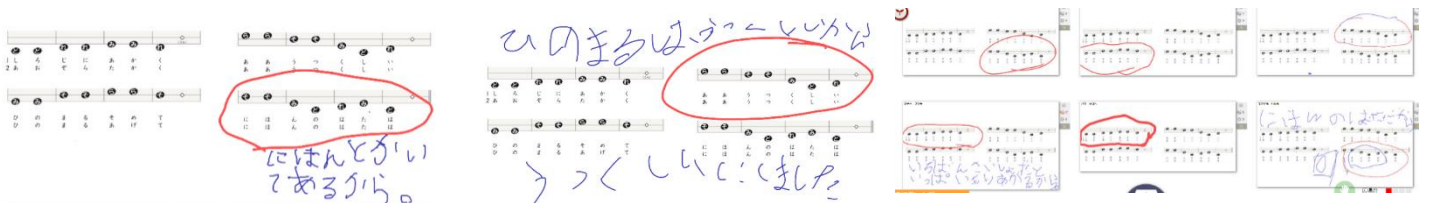
◇本時の目標

旋律の流れや、盛り上がりを感じながら歌うことができる。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

ムーブノート

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 曲名や歌詞から情景を想像する。	
展開	2 階名唱し、音の高さの変化	を活用し、盛り上げて歌いたいところを記入した楽譜を広場に送らせることで、意見の共有をする。
	3 どこを盛り上げて歌いたいか考える。	
	4 ムーブノートで、友達の意見を見合ったり、発表し合ったりする。	
まとめ	5 盛り上がりを感じながら「ひのまる」を歌う。	



◇授業のポイント

1年生の児童にとって、音高の変化を感じることは難しいが、ドレミ体操をしながら階名唱をすることで、音高の変化を感じて歌うことができる。ムーブノートを用い、盛り上げて歌いたい部分を理由と共に楽譜に記入させ、発表の際に詳しく理由を聞く。広場でクラスの意見を見ることで、どこを選んだ児童が多いか一目で見ることができる。

◇授業を振り返って

児童は、友達の意見を見て、「〇〇さん私と同じところだ。」「なるほど。」等と呟き、共感した意見には、拍手ボタンを押していた。歌詞の思いを感じ取りながら、どこを盛り上げて歌いたいか考える児童が多かった。ドレミ体操をしながら階名唱をする活動は有効であったが、曲の盛り上がりと音高の変化を結びつけることには課題が残った。

◇本時の目標

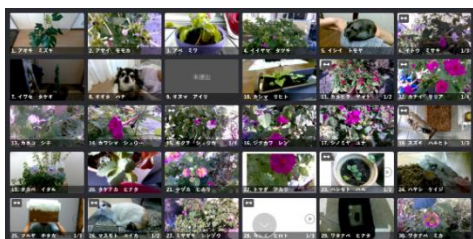
知らせたいものの絵を描いたり、見つけたことを書き表したりすることができる。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

オクリンク

拡大提示装置

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 教科書を見て、観察カードの書き方を確認する。	★教科書の挿絵を電子黒板により拡大提示し、課題意識をもてるようにする。
	しらせたいもののえと、見つけたことをかこう。	
展開	2 オクリンクの写真を見ながら、知らせたいものの絵と見つけたことを観察カードにまとめる。 3 知らせたいものの絵や見つけたことを発表する。	★ミライシード「オクリンク」で撮った画像を開き、特徴をつかませてから、観察カードに書かせる。
まとめ	4 本時の振り返りをする。	



◇授業のポイント

生活科との関連を図り、学校にいる生き物や植物、家で育てている植物や生き物など、友達に知らせたい内容を考えさせ、ミライシード「オクリンク」を活用し、写真撮影をした。全体写真の他、友達の写真を見たり、実物投影機から観察カードを映し出し、自分の考えや気づき、伝えたい思いなどを表現させたりした。

◇授業を振り返って

学級全体で、友達が伝えたいことを一目で見ることや、それぞれが撮影した写真をじっくりと見ることができ、他者意識が高まった。また、写真から観察カードに書き起こしたことで、いつでも観察したものを見られるという利点があった。さらには、発表する場面を設けたことで、言葉で伝える力を育てることができた。

◇本時の目標

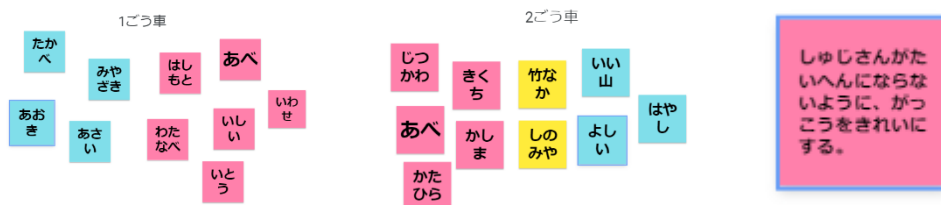
相手に対して親切に、思いやりをもって接しようとする実践意欲と態度を育てる。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

ジャムボード

拡大提示装置

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 親切にされた経験を発表する。	★教科書の挿絵を電子黒板により拡大掲示する。
	こまっているひとのために、どんなことができるといいでしょう。	
展開	2 目から、涙が落ちたときのきつねの気持ちを考える。 3 自分の生活を振り返り、誰に、どんなことができるかを考える。	★ジャムボードで誰に優しくしたいかを色別で選択させ提出させる。【青（友達） ピンク（家族や親戚など）】
まとめ	4 学習を振り返る。	



◇授業のポイント

きつねの立場から、くりのみを分けた思いやりの気持ちを共感的に考えさせ、主体的な学びにつながるようにした。ワークシートへの記述後は、小グループで話し合う時間を十分に設け、クラス全体での共有を図った。今後の実践意欲を育てるために、ジャムボードで誰に優しくしていきたいかを色別で選択させるとともに、自分ができることは教師が聞き取り、メモ書きをした。

◇授業を振り返って

色別で自分の名前を書いて提出させたため、友達の考えを知ることができたとともに、相手に対してどのように親切にするかをメモから視覚的に捉えることで、共有を深めることができた。

◇本時の目標

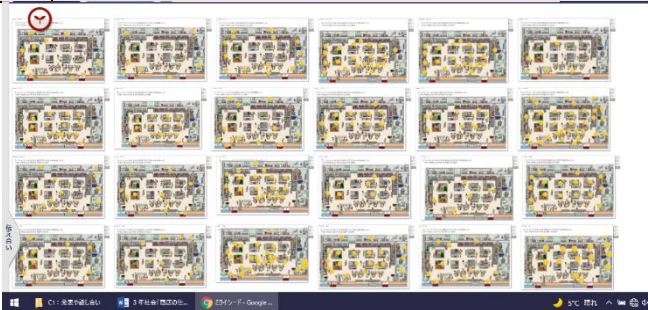
学習問題について予想して、販売の仕事調べる学習の見通しを立てることができる。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

拡大提示装置

ムーブノート

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 スーパーマーケットが多くの人に利用されている理由を話し合う。 スーパーマーケットのくふうを調べるには、どうすればよいだろう。	
展開	2 店のイラストから、店内の様子を観察する。 3 調べたことを整理し、店の工夫について予想する。	★ムーブノートでスーパーマーケットの店内イラストを共有し、工夫している部分にマークさせる。 ★マークしたことを集計し、発表している児童のワークシートを電子黒板に示しながら分かる店の工夫の予想を発表させる。
まとめ	4 店の工夫を調べる計画を立てる。	



◇授業のポイント

店の工夫を予想する手がかりとして、スーパーマーケットの店内イラストを児童全員へ送りマークをつけさせることで、主体的に取り組めるようにした。友達のマークと自分のマークを比較しながら発表聞くことで、自分が見つけられなかった工夫に気づいたり理解を深めたりできるようにした。

◇授業を振り返って

児童の予想をその場で集計し発表することで、着目させたい工夫について児童の言葉から取り上げることができた。自分が見つけた工夫を友達とすぐに共有できることで、児童の学習に対する意欲が高まり話し合いが活発になった。

◇本時の目標

粘土でできることを生かし、想像した世界を作り出す楽しさや喜びを味わうとともに、作品のよさを伝え合う。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

拡大提示装置

オクリンク

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 粘土でできることを試し、どんな粘土ランドにするか考える。	
	みんなが行きたくなるような楽しいねん土ランドを作ろう。	
展開	2 自分の考えた乗り物やアトラクション、モニュメント等を粘土で作る。	
まとめ	3 作った作品を見せ合い、よさを伝え合う。	★作品をタブレットで撮影し、オクリンクに提出する。



◇授業のポイント

「粘土の作品はそのまま残しておくことができない」作品を大切にするためにも、自分たちで作った作品を様々な角度から撮影して記録し、友達に紹介することで、自分の作品の工夫したところやよく見てほしいところを強調して伝えることができた。

◇授業を振り返って

粘土の作品そのものを残しておくことができないので自分のお気に入りの部分、友達に見てほしいところなどを自分で撮影し、オクリンクのカードを作成したものを発表することで友達の作品のよさを共有することができた。

◇本時の目標

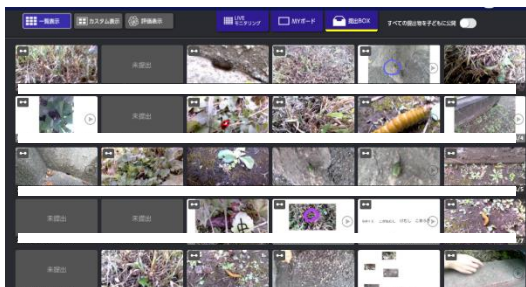
見つけた動物がいた場所の様子と他の動物がいた場所の様子を比べ、生物と環境の関わりについて考察することができる。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

拡大提示装置

オクリンク

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 前時に取り組んだ観察を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> こん虫などの動物はどのような場所にいて何をしているのでしょうか。 </div>	
展開	2 昆虫などの動物がいた場所の結果を発表する。 3 調べたことを整理し、結果から言えることを話し合う。	★タブレットで撮影してきた生き物とその場所をオクリンクに提出させる。 ★電子黒板に、発表している児童が撮影してきたカードを提示し全体共有する。
まとめ	4 分かったことをまとめ、本時の振り返りをする。	



◇授業のポイント

送られたカードを児童も自由に見られるように「公開」とすることで、友達のカードと自分のカードを比較し、自分が見つけることのできなかった生き物を知ることができるようにする。着目した点に即して仲間分けできるよう、「比較する」機能を使用して提示する。

◇授業を振り返って

観察カードを作成する時間は個人差がある。カードを記入するのに精一杯で着目させたいポイントに目を向けられなかった児童も、一瞬の姿をとらえたり、周囲の環境を広く記録しやすいカメラで撮影したりすることでたくさんの情報の中から差異点や共通点を探ることができた。


◇本時の目標

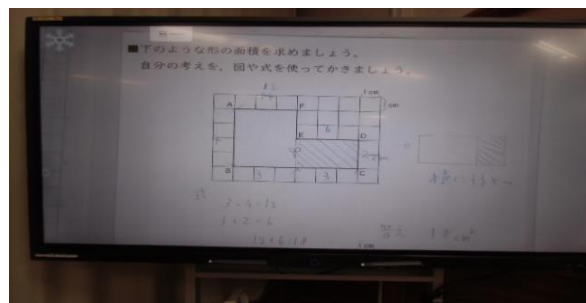
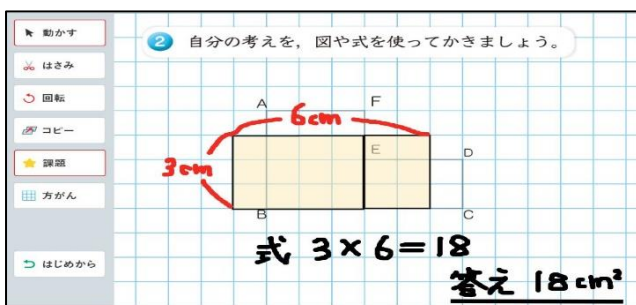
既習の長方形や正方形の面積を求める学習を活用して、L字型の図形の面積の求め方を考え、説明することができる。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

拡大提示装置

D コンテンツ

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 問題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> どのようにすれば  のような形の面積を求めることができるか考えよう。 </div>	
展開	2 考え方を図や式で表す。 3 考え方を共有する。	★発表場面では電子黒板を使って説明をさせる。 ★発表内容の補足を D コンテンツを使って行う。
まとめ	4 複合図形の面積の求め方についてまとめる。	



◇授業のポイント

複合図形の面積を計算で求める方法の一つに、複数の長方形に分けて回転・移動をさせて考える方法がある。D コンテンツを使用することで、画面上で簡単に図形を切り離したり、回転・移動させたりすることが可能となる。

◇授業を振り返って

発表時にノートを見せたい児童は電子黒板で拡大提示した後に D コンテンツで捕捉ができ、用途により ICT を上手く使い分けることができた。D コンテンツを使って、画面上で図形を切り離したり回転・移動させたりする操作を全体共有する場面では「おー！」「そういうことか！」と歓声が沸き、児童の理解をより一層深めることができた。

◇本時の目標

電流の働きについて、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決する。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

オクリンク

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 問題を把握する。 モーターが速く回ると思う電池のつなぎ方を考えよう。	
展開	2 予想する。 3 考え方を共有する。	★オクリンクで電池のつなぎ方の予想を書き、提出する。
まとめ	4 次時で行う実験の計画を立てる。	

モーターが速く回ると思う電池のつなぎ方を考えましょう。

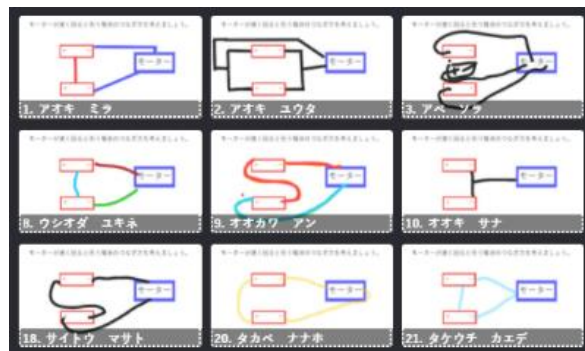
+

-

モーター

+

-



◇授業のポイント

2個の乾電池とモーターを書いたワークシートを予め児童全員へ送っておき、導線のつなぎ方を予想して書きこませる。オクリンクで提出させた考えを比較しながら、「一方の乾電池の極がもう一方の乾電池の極とどのようにつながっているか」という観点で整理していく。

◇授業を振り返って

事前に、予想を提出させておくと、考えを比較させる順番などの計画が立てられるのでよりよい。

オクリンクの「比較する」機能を使うと、いくつかの考えを大きく映し出せて分かりやすい。

◇本時の目標

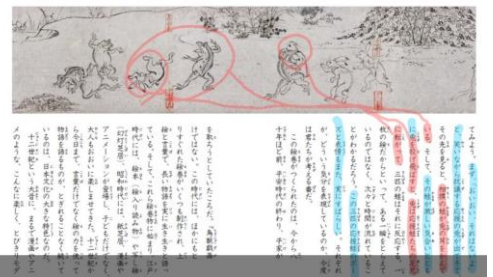
筆者が、絵の描き方や絵巻物について、どんな感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができる。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

拡大提示装置

オクリンク

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 本時のめあてを確認する。	★前時にまとめた自分や友達の「鳥獣戯画」に対する捉え方（ムーブノート）を再確認させる。
	絵と文章を照らし合わせながら、筆者の見方をとらえよう。	
展開	2 筆者が「絵」のどこに着目しているかを考え、絵と文章をつなぐ。 3 グループで、2について確認し合う。	★「オクリンク」に配布されたもの書き込ませる。 ★「オクリンク」で提出したものをグループで見合い、共通点や相違点を確認させる。
まとめ	4 「絵」に対する筆者の評価に対し、自分の考えや感想をまとめる。	★「オクリンク」を見ながら、自分の考えや感想をノートに書かせる。



◇授業のポイント

筆者が絵のどこに着目し評価しているのかを、絵と文章を線で結びオクリンクで提出させ、それをもとにグループで共通点と相違点について話し合わせる。全体での共有では、電子黒板に提出したものを映し出しながら行い、必要に応じて複数の提出物を比較表示することで理解を深める。

◇授業を振り返って

今までは、教科書やワークシートに書き込ませていたことを、今回はタブレット端末でどこまで置き換えられるかを試してみた。国語の苦手な児童にはよい動機付けとなったようだが、A層児童にとっては物足りないようだった。読み深めるための工夫が必要だった。

◇本時の目標

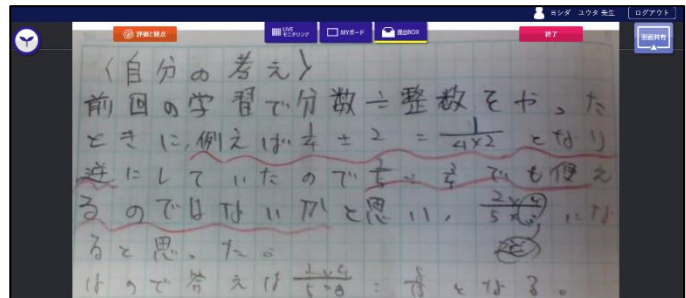
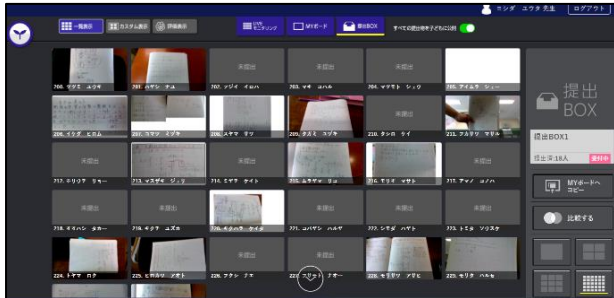
分数でわることの意味を図や式を用いて考え、説明することができる。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

拡大提示装置

オクリンク

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 問題を把握する。	
		分数のわり算の計算のしかたを考えよう
展開	2 式と説明をノートに書く。 3 考え方を共有する。	★自分の考えを書いたノートを写真で撮影し、発表場面では電子黒板を使って説明をさせる。
まとめ	4 分数でわるわり算の式の意味をまとめる。	



◇授業のポイント

算数の発表場面では、これまで画用紙やホワイトボードなどに書いて説明するか、ノートを書画カメラに映して説明する活動を行ってきた。その活動では子供が考えを2回書く必要があったり、タイムラグがあったりする。ノートに書いた内容を写真で撮影したものをオクリンクで共有することで、書いたものを共有でき、それをそのまま発表に使うことができる。

◇授業を振り返って

自分のノートをそのまま発表に使うことで、自力解決から共有までの流れをスムーズに行うことができた。また、自力解決中に送られてきたものを一括して見るので、指名計画を立てることができた。ノートの利点とタブレット端末の利点をどちらも生かすことができた。

◇本時の目標

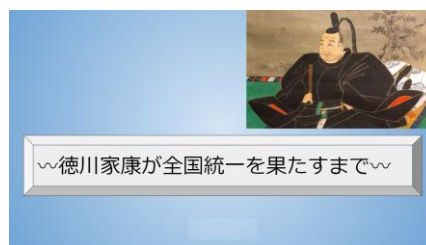
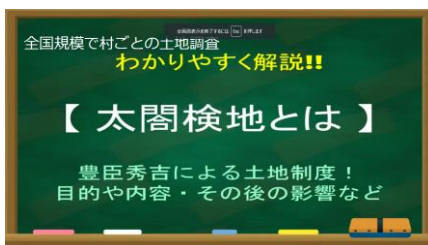
3人の武将によって戦国の世の中が統一されたことを捉え、3人の武将を比較し、果たした役割を考え、表現する。

◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

拡大提示装置

スライド

	学習活動	★ICT 活用場面
	前時までに、3人の武将のうち1人を選び、調べ学習を進めて、スライドにまとめた。	
導入	1 3人の武将の顔と名前を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">3人の武将はどのようにして全国統一を目指したのだろう</div>	★3人の武将の絵を並べて、電子黒板により拡大提示する。
展開	2 まとめたものをグループ内で発表し合う。 3 3人の武将について、全体共有する。	★「スライド」を使って発表させる。 ★電子黒板に、発表している児童が作成した「スライド」を示す。
まとめ	4 本時の振り返りをする。	



◇授業のポイント

担当した武将については、主体的に調べたことを視覚的効果を工夫しながらスライドにまとめ発表させることで、また、担当以外の武将については、友達の発表を聞いたり見たりしながら、理解を深めるようにした。その後、全体でまとめることで、調べていない武将についても同一に理解できるようにした。

◇授業を振り返って

児童の多くは、教科書や資料集に加え、インターネットから資料を集め、理解を深めて発表することができた。しかし、調べ学習とまとめ方に個人差が大きく、グループによって理解に差が出た。スライドによるまとめ方についてのポイントを押さえる必要がある。